

令和8年度 富士高等学校・富士高等学校附属中学校経営計画

令和8年4月1日決定

1 スクール・ミッション			
「教養、調和、挑戦」を目標とし、自主自律、文武両道の精神の下、6年間一貫通貫した探究活動を中心とした教育活動を通じて理数的課題発見力・解決力を育成するとともに、新しい価値観と既存の価値観を調和させ、社会の課題を解決するために自己の限界に挑戦できる人間を育成します。			
2 教育理念・目標		3 スクール・ポリシー	
(1)教育理念 自主自立・文武両道	(1)グラデュエーション・ポリシー 富士山の裾野のような幅広い教養と高度な理数的発見力と理数的解決力を身に付けさせることで課題発見力と課題解決力を育成し、これらの力を活用して、新しい価値観と既存の価値観を調和させ、社会の課題を解決するために自己の限界(高嶺)に挑戦できる人間を育成します。	(2)カリキュラム・ポリシー 文理を問わないリベラルアーツ教育や生徒が主体的に運営する特別活動をととして、「教養力」「調和力」「挑戦力」を育成します。特に、スーパーサイエンスハイスクールとして、全校生徒が教科「理数探究」を履修して課題研究「富士未来学」に挑戦する中高一貫理数教育カリキュラムを中心とした探究的な学びを、全教員・全教科体制で実践し、「挑戦力」「理数的発見力」「理数的解決力」の3つの力を育成します。	(3)アドミッション・ポリシー 本校は、「自己調整を行いながら、粘り強く試行錯誤しながら挑戦しようとする意志をもった生徒」、「挑戦力を働かせて、知的好奇心に基づいて調査しながら課題を発見しようとする生徒」、「挑戦力を働かせて、科学的な根拠を裏付けにして課題を解決しようとする生徒」、「学校行事などの特別活動や部活動に熱心に取り組み、豊かな人格の形成を目指す生徒」を求めています。
4 中期的目標と方策			
情報技術の革新的な進化が社会の在り方に変革をもたらし、それに対応するため学習指導要領の実施や高大接続改革等により学びの質的転換が図られようとしている。また、成年年齢の引き下げにより、生徒は成人としての積極的な社会参加が求められる。 自ら未来を切り拓く力の育成など「東京都教育ビジョン(第5次)」の方針を踏まえ令和8年度の目標等を示す。	(1)目標 ア SSHⅡ期指定校として、6年間に渡る系統的な探究学習を柱として多様な教育活動を展開し、科学的グローバルイノベーターを育成する。 イ 知・徳・体のバランスの取れた教育活動を展開して、生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす。	(2)方策 ○中高一貫教育校の教育課程の強みを最大限に生かし、6年間一貫通貫した教育課程の展開 ○理数に重点を置いた探究学習を柱とし、各教科、グローバル教育、キャリアデザイン、特別活動等を循環させ、相乗効果により生徒の資質・能力を育成 ○SSHⅡ期指定校、Global Education Network Premier 20、海外学校間交流校として特色ある教育活動の推進 ○心と体の健康推進、道徳教育を中核とした心を育てる教育の充実	
領域	5 今年度の取組目標と方策 (1)教育活動の目標と方策		(2)重点目標と方策
ア 学習指導	目標	「SSHⅡ期」「Global Education Network Premier 20」を発展させた富士教育のグランドデザインに基づく質の高い授業への変革	6年間、一貫通貫した教育課程及び探究学習を柱とした多様な教育活動の実施
	方策	○主体的・対話的で深い学びの実践 ○自学自習の学習習慣の確立 ○習熟度別、少人数授業の効果的な取組及び、講習、補習の充実 ○リベラルアーツ教育の趣旨を生かすカリキュラムデザインの策定 ○SSH事業への取組、カリキュラムマネジメントの実施とシラバスの策定及び教科指導の研究の推進 ○スマートスクール構想の拡充と実践 ○デジタル教育の推進 ○グローバル人材の育成	○探究・SSH事業と教科指導、グローバル教育とを循環させ、相乗効果により探究を深め、学力や英語によるコミュニケーション能力を向上 ○自主学習に関する意欲と学習時間向上 ○基礎的・基本的な学力を身に付ける支援 ○難関大学受験に対応し得る学力を身に付ける支援
イ 生活指導	目標	成人としての社会的自立を果たせる生徒の育成	自主自律の精神の下、生活規律のある生徒の育成
	方策	○都立高校生活指導指針に基づき、基本的なルール・マナー、挨拶の励行など社会性を育成するため、組織的に生徒への支援を行う。 ○授業規律、生活規律の確立 ○道徳教育を推進し、思いやりの心や奉仕の精神を育成し、協働してより高みを目指す意欲の喚起 ○家庭、地域、関係機関と連携した生徒の育成 ○中学3学年から高校2学年までの中高接続を生かした異学年交流を活用した教育	○挨拶し、声を掛け合える環境づくり ○時間を大切に行動選択の励行 ○安全行動(自転車運転ヘルメット着用等)の指導 ○ボランティア活動への積極的参加 ○異学年交流による人材育成 ○不登校・中途退学の未然防止や早期支援 ○通級指導など個々の個に応じた指導の充実
ウ 進路指導	目標	生徒の進路希望の実現	より高き進路希望への挑戦を支援する体制づくり
	方策	○より高き進路希望への意志を貫き挑戦する生徒の育成と支援体制の構築 ○キャリアデザイン構想と国立大学、海外大学等受験支援体制の強化 ○進路、教科、学年、部活動顧問等間におけるデータ共有と能力伸長、学力向上に向けた励ます指導の励行 ○高校3年間での自己実現に向けた、データ分析による生徒一人一人に寄り添った進路指導の充実 ○模試答案分析、大学入試研究、指導内容や指導方法の改善による授業力の向上 ○自習室や進路指導室の充実と有効活用	○国立大学を目指す環境づくり ○模試結果分析の一層の充実による進路指導等の改善 ○探究・SSH事業における大学訪問や研究者等に接することを通じ、近未来を展望することで高い進路目標設定を支援
エ 特別活動等	目標	文武両道の精神を生かし健康で活力に満ちた学校行事や委員会活動、部活動への主体的な取組で自己実現の態度の養成	文武両道の精神で、何事にも挑戦する生徒の育成
	方策	○体育祭、文化祭、合唱祭等の成功体験により、感動を与える ○生徒会活動、委員会活動の活性化 ○部活動への参加奨励と充実感により、協調、協働の重要性に気付かせる ○積極的、主体的な取組により、豊かな人間性を育む	○探究・SSH事業と特別活動とを循環させ、相乗効果により国際理解と国際交流を推進、よりよい人間関係を構築 ○ホームルーム活動、生徒会活動のより一層の活性化 ○学校行事への積極的参加 ○部活動等と学習習慣を両立するメリハリのある生活習慣
オ 健康と体の推進	目標	「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づく心身ともに健康で、自己の挑戦を支える体力向上 「東京都特別支援教育推進計画(第二期)第三次実施計画」に基づく取組	心身の健康と体力増進
	方策	○学校保健計画に基づく、保健指導の推進 ○生徒の運動習慣の確立と自己管理能力の向上 ○スクールカウンセラー等や家庭と連携した相談体制の強化 ○インクルーシブ教育の理解と通級等のケース会議等における情報共有 ○生命尊重、人権尊重の指導強化といじめの防止	○安全教育に関する外部機関を活用した講習等の実施 ○いじめ防止に関する生徒への指導や体罰防止研修の実施 ○SOSを出せる力の育成、相談先を周知
カ 広報活動	目標	富士の特色を明確にし、富士を第一志望とする志ある児童の拡大	富士の魅力発信の活性化
	方策	○ホームページの活性化 ○学校説明会等での魅力発信の検討 ○小学校や小学生とその保護者への広報活動の一層の充実 ○学習塾への働きかけ	○小中学生の自由研究支援、探究発表会への招待等 ○小学生対象の説明会等の活性化、広報活動の充実 ○ホームページを魅力あるものとし、アクセス数を増加
キ 組織・体制・経営	目標	チーム富士としての教職員の経営組織体制の強化	働き方改革の推進
	方策	○会議の在り方と内容の充実 ○情報共有と教員の当事者意識の醸成 ○教師が一丸となった生徒支援体制の強化と人材育成 ○教育課程、予算執行、施設整備、人的適正配置を一体とした経営の適正化 ○ライフワークバランスを徹底した働き方改革の取組	○コールセンター機能の導入(9月から) ○スクール・サポート・スタッフ導入(5月から) ○職員会議時間と土日の出勤日数の縮減 ○SSH事業PT編成、分掌組織改編による業務効率化・均等化 ○服務事故根絶に向けた研修等を一層充実

【数値目標等】  
○学力を付ける授業に関する肯定的割合 80%以上  
○教員の富士未来学へ参画 100%  
○授業における ICT 活用者 100%

【数値目標等】  
○挨拶運動の実施 年3回  
○8時25分登校 急情な遅刻 各クラス平均 1名以下

【数値目標等】  
○学力推移調査 Sランク各学年30%以上  
○大学入学共通テスト フル型受験率 60%以上  
○大学入学共通テスト 得点率91%以上 5人以上  
○大学入学共通テスト フル型受験平均得点率 75%以上

【数値目標等】  
○理数に関するオリンピック等への大会の参加受賞者 1人以上  
○部活動全国大会出場 50人以上

【数値目標等】  
○救命救急法の講習や交通安全教室の実施  
○いじめ防止や体罰防止研修実施 2回以上

【数値目標等】  
○説明会・学校見学会等参加 2,000組以上  
○ホームページ更新 500回以上  
○応募倍率 3.0倍以上

【数値目標等】  
○月あたり超過勤務45時間以上 月平均 20人以下  
○全教員対象の放課後会議日数 対前年度年間行事予定 10日以上減  
○土曜授業・保護者会等の土日勤務日 対前年度 3日以上減